

2022年度生態工学会 第3回理事会
日時：2023年2月22日（水）14:20～15:20
場所：東京文化会館

【総務委員会】

2022年度総務委員会活動報告（2月期）

(1) 会員数・賛助会員数について、下記のように報告がなされた。

会員数：2023年2月21日現在（カッコ内は2022年10月25日からの増減）

終身会員1名（増減なし）

正会員311名（3名減）

学生会員80名（増減なし）

合計392名（3名減）

賛助会員数：5団体6口（増減なし）

ダイキン工業株式会社(2口)、ホテイ産業研究所(1口)、

宇宙システム開発株式会社（1口）、クリムゾンインタラクティブ(1口)

プライムデリカ株式会社（1口）

(2) 審議事項

- ・令和5年度「日本工学会フェロー」の推薦について
大政謙次名誉会員を推薦することが承認された。
- ・第39回国際生物学賞受賞候補者の推薦について
候補者がおられたら、事務局にご連絡をいただくこととなった。
- ・「農業環境工学関連学会2023年合同大会」への参加に必要な手続きを確認し、学会として参加する方向で調整をしていくこととなった。

(3) 報告事項

下記の報告がなされた。

- ・第66回宇宙科学技術連合講演会への協賛を行った。
- ・1月20日に開催された日本地球惑星科学連合の「臨時学協会長会議」に船田良会長が出席された。
- ・「日本農業工学会2023」に候補者として渡邊博之副会長の推薦を行い、受賞が決定した。
- ・「2023年度日本農業工学会フェロー」に候補者として谷晃副会長、横谷香織副会長の推薦を行い、フェローの称号が授与された。
- ・訃報に関して
新田慶治名誉会長、皆川秀夫特別理事、芦田章理事がご逝去されました。
ご冥福をお祈りいたします。

以上

【編集委員会】

2022年度編集委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

(1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」34巻2号～35巻1号(2022年4月、7月、10月、2023年1月発刊)を発行した（内容：原著論文7、短報2、特別寄稿1、ニュース・企画・報告0、お知らせ、投稿規程、総ページ数114）。なお、2023年1月24日時点での査読・著者修正中の論文は、原著論文1報、短報0報、総合論文0報であり、受理済み原著論文および短報0報である。

また、35巻1号までをJ-STAGE上の電子ジャーナルとして公開した。

2022年度「生態工学」掲載論文一覧

種類	第34巻			第35巻
	2	3	4	1
特別寄稿				1
特集論文				
原著論文	1	2	2	2
短報	1			1
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告				

(2) 学会賞の推薦

奨励賞として以下の1件を推薦した。

- ・34巻4号 低圧環境下におけるトレニア‘ドワーフブルー’の生育と花芽形成、
島田明典 ほか

論文賞は該当なしとして報告した。

以上

【企画委員会】

2022年度企画委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

(1) 日本地球惑星科学連合2022年大会（合同開催）

日 時：2022年5月22日（日）～6月3日（金）

【ハイブリッド期間】2022年5月22日（日）～27日（金）

【オンラインポスターセッション】2022年5月29日（日）～6月3日（金）

会 場：幕張メッセ、オンライン（ハイブリット方式）

主 催：日本地球惑星科学連合

特記事項：5月22日（日）にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、口頭発表4件（9:00～10:30）とポスター発表5件（17:15～18:45）を実施した。さらに、5月30日（月）にオンラインポスター発表（11:00～13:00）を実施した。

(2) 2022年度生態工学会年次大会（主催）

日 時：2022年6月24日（金）～6月25日（土）

会 場：東京農工大、オンライン（一部ハイブリット）

参加数：93名

特記事項：

■ 一般セッション口頭発表 11件、ポスターセッション 21件

■ オーガナイズドセッション（ハイブリット、NPO法人蔵前バイオエネルギー）
「NPO法人の活動による地球環境とエネルギー利用の改善」 口頭発表6件

■ 一般公開特別講演会（ハイブリット）

「循環型食糧（料）生産システムの最前線と社会実装」

講演 1 水産における社会実装設備と今後に向けて

玉川大学農学部 教授 増田篤稔氏

講演 2 未利用資源からの昆虫生産：食材としての魅力と総合的生物生産に向けて

東京農工大学大学院生物システム応用科学府 准教授 鈴木丈嗣氏

■ 次世代応援シンポジウム2022（ハイブリット、次世代科学社会活性化委員会）
「これまでの参加者らとの対話～NAGOMI会の活動報告～」

口頭発表1件、パネルディスカッション、体操、若手による討論会

■ Eco-Engineering International ONLINE-symposium 2022

（ハイブリット、国際委員会）

口頭発表 6件、パネルディスカッション

(3) 日本マイクログラフィティ応用学会 第34回学術講演会（JASMAC-34）

日 時：2022年9月14日（水）～16（金）

会 場：名古屋市立大学

特記事項：9月15日（木）にオーガナイズドセッション「宇宙惑星居住・ECLSS」において、口頭発表を6件実施した。

(4) 第66回宇宙科学技術連合講演会（共催）

日 時：2022年11月1日（火）～11月4日（金）

会 場：熊本城ホール（熊本県熊本市）

特記事項：会場からは学生を中心に非常に多くの質問があり、活気のある学会発表であった。最後に金井宇宙飛行士から発表があり、多くの立ち見が出て終了後も記念撮影やサイン会が行われた。

- (5) 第2回 生態工学オンラインシンポジウム（主催）
日 時：中止
テーマ：講演者の調整に難航したため、本年度は中止とする。
- (6) 定例研究会
第1回
日 時：5月26日（第1回理事会後）
タイトル：プライムデリカの野菜事業について
演者：プライムデリカ株式会社 R&D推進部 玉置 功氏
- 第2回
日 時：10月27日（第2回理事会後）
タイトル：NEDO宮古島植物工場プロジェクトのご紹介
演者：電力中央研究所グリッドイノベーション研究本部ENIC研究部門
研究推進マネージャー 庄子和博氏

以上

【表彰委員会】

2022年度表彰委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

2023年度生態工学会学会賞受賞候補者の選考結果について

- (1) 受賞候補者の募集
募集期間：2022年4月1日～11月30日（学会誌，学会ホームページ）
募集結果：推薦2名（功労賞1名，奨励賞1名）
- (2) 表彰委員による選考
下記のように決定した。
- 生態工学会賞（功労賞）：加藤 浩 氏
「生態工学会初のオンライン年次大会の盛会および委員会活動に対する功績」
- 奨励賞：島田 明典 氏
「低圧環境下におけるトレニア‘ドワーフブルー’の生育と花芽形成」
- (3) 受賞候補者の募集期間延長について
上記の募集期間内にて該当の無かった「学術賞」の推薦を募るため、受賞候補者の募集期間を延長することが承認された。

以上

【広報委員会】

2022 年度広報委員会活動報告（2 月期）

下記の報告がなされた。

(1) SEE Quick（メール配信）の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2022 年 4 月 1 日から 2023 年 2 月 15 日までに 102 回（2140 より 2241 号）の情報提供を行った。また、2022 年 12 月からは「宇宙事業推進委員会メルマガ」の配信も始まった。今後も、円滑な SEE Quick の配信業務を行うとともに、問題点などを検証し改善に努める。また、会員からの有用な情報を迅速に配信できる体制を維持する。

(2) HP の内容の更新

「関西支部セミナー「紫外線殺菌セミナーのご案内」（3/6）」、「2023 生態工学会年次大会（高崎大会）のお知らせ 6/24～25」等の会員に有用な情報を掲載するとともに、その他のコンテンツに関しても適宜更新作業を行った。

(3) 生態工学会リーフレットの更新

リーフレットは HP（https://see.gr.jp/what/pdf/see_leeflet_new.pdf）からダウンロード可能です。内容の更新がありましたら広報委員宛に連絡ください。

以上

【産学連携委員会】

2022 年度産学連携委員会活動報告（2 月期）

下記の報告がなされた。

関西支部で行うセミナーの講演を行う。

以上

【次世代科学社会活性化委員会】

2022年度次世代科学社会活性化委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

- (1) 継続して男女共同参画学協会連絡会の運営委員としての活動を行っている。
引き続き連絡会内で男女共同参画問題洗い出し WG を宇宙生物学会と共に進めている。
- (2) 本委員会は、日本宇宙生物学会・科学者生活委員会と協力しあい、世代を超えて話し合える場として「NAGOMI」会を、おおよそ月に1度継続して行っている。各開催時前には、生態工学会会員各位にお知らせを配信して頂いている。
- (3) 企画委員会と協力して、例年通り JpGU2023 の参加を予定している。JPGU 主コンピーナは加藤理事を中心に準備を進めている。

以上

【CELSS 委員会】

2022年度 CELSS 委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

- (1) 【日本学術会議】「未来の学術振興構想」
日本学術会議が「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」を公募した。これは、以前の学術会議の大型研究計画マスタープランを代替する動きである。日本航空宇宙学会では「未来の学術振興構想」へ提案し、生態工学会は宇宙居住科学連合の一員として賛同した。タイトルは「月での持続可能な社会の構築を目指した「アカデミック・ハブ」構想による分野横断的な学術の振興」であり、その内容は地上において月面活動を実験を行った後、段階的に月面基地を拡充して行く内容である。
学術会議へ意向表明 10/21
日本航空宇宙学会理事会へ 11/23 にインプット
学術会議へ提案書作成 12/16 提出完了
- (2) 第2回国際宇宙産業展【終了】
日 時：2023年2月1日(水)～3日(金)
会 場：東京ビッグサイト南ホールにて
主 催：日刊工業新聞
特記事項：「月の縦孔地下基地」に関する展示を行う。「月面工場（正確には、月面での工業社会）の構築」に向けて日本全体の意識を変えて、構想や計画を実現するための「概念からリアルソフト」を行う。
高市早苗 宇宙大臣も見学に来訪した。
<https://biz.nikkan.co.jp/eve/isiex/>

(3) 【MOON press】第3回 月面開発フォーラム

日 時：2022年12月8日（木）

会 場：X-NIHONBASHI TOWER

主 催：日刊工業新聞

■ パネルディスカッション

「宇宙兄弟にみる未来ストーリー」

宇宙兄弟 編集者 株式会社コルク 小室 元気 氏

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 春山 純一 氏

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 有人宇宙技術部門きぼう利用センター

主任研究開発員 肥後 尚之 氏

モデレータ：日刊工業新聞社 編集局科学技術部 飯田 真美子 氏

■ 講演①「月面開発に関する民間企業の動向と必要となる国際ルール」

株式会社三菱総合研究所 内田 敦 氏

■ 講演②「（調整中）」

月面産業ビジョン協議会 座長代理 中村 貴裕 氏

■ 講演③「MHIの月面開発取組み構想」

三菱重工業株式会社 宇宙事業部 技術部 構造設計課主席技師 辻田 大輔 氏

■ 講演④「北海道に、宇宙版シリコンバレーをつくる」

SPACE COTAN株式会社 取締役兼COO 大出 大輔 氏

■ 講演⑤「（調整中）」

宇宙コミュニティ主催者 Infinite Change株式会社 奈須野 真弓 氏

■ 講演⑥「2022年月面開発フォーラムを振り返って」

株式会社ダイモン 取締役COO 三宅 創太 氏

- (4) 学会HP内での「CELSS研究を一覧できる紹介ページ」の作成を検討している。学会HPへのリンクをするべく「CELSS研究を一覧できる紹介ページ」の作成を外部サイトで進めている。

以上

【宇宙事業推進担当委員会】

2022年度 宇宙事業推進担当委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

- (1) 宇宙事業推進委員会からの情報提供として、生命維持、宇宙居住を中心とした宇宙技術、ビジネスに関連するニュース、イベント、助成金等の情報を SEE Quick で配信した。（第1回：2022/11/17、第2回：2022/12/20、第3回：2023/2/17）
- (2) 来年度の年次大会に向けて、CELSS委員会と協力して、宇宙居住に関連したオーガナイズドセッションを検討中。

【各支部活動】

2022 年度各支部活動報告（2 月期）

下記の報告がなされた。

【北海道・東北支部】

特に報告事項なし、学会員獲得にむけて努力します。

【関東支部】

(1) 今期の活動報告

今期は特に活動出来ていません。。

(2) 次期の活動予定

企業会員増加に向けた企画案検討予定。

【東海支部】

令和 4 年度農業気象学会東海支部・北陸支部、生態工学会中部支部 合同研究発表会

令和 4 年 1 2 月 7 日水曜日 13:00～16:30

※Zoom によるオンライン発表、発表・参加費なし

発表 9 組：静岡県立大学、北海道大学、岐阜大学、静岡県農技研、沼津高専、静岡県立農林環境専門職大学、日本 DMC 株式会社の方々にご発表頂きました。

発表時間に 12～15 分、質疑応答に 5 分という 1 組の持ち時間にゆとりがあるため、学生の方々の日頃の研究成果をまとめ直す機会になるだけでなく、何よりも先生方から貴重なアドバイスを頂けるため、より一層、研究の励みにつながったのではないかと思います。スライドの作り込みと落ち着いた発表姿勢が素晴らしかったので、皆さん、力を入れて発表に望まれたことと思います。

【関西支部】

2022 年度活動報告

【日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウム開催】

恒例の日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウムですが、今年度は下記のとおり
にオンラインで開催いたしました。

・日時：2022 年 12 月 2 日(金) 14:45～16:45

・場所：オンライン開催 (Zoom)

・内容：

14:45～15:45

「建築物緑化における気象環境対応技術について」

大阪公立大学大学院農学研究科緑地環境科学専攻教授山田宏之

15:45～16:45

「大阪公立大学植物工場研究センター企業コンソーシアム

最適化空調システムプロジェクトの取組み紹介

—工学系と農学系の融合した大阪公立大ならではの取組み—

・プロジェクトの紹介

(プロジェクト幹事企業)株式会社CKD坂幸憲

・「植物工場用のアオジソ品種育成に向けた取組み」

大阪公立大学大学院農学研究科応用生物科学専攻准教授山口夕

・「植物の環境因子に対する生理応答評価と現場測定に基づく生育モデルの構築」

大阪公立大学大学院工学研究科機械系専攻教授木下進一

【紫外線殺菌セミナー開催】（資料1）

関西支部主催で紫外線殺菌セミナーを下記のとおりに関連企業を交えてオンラインで開催予定です。

- ・日時：2023年3月6日(月)14:00～15:30
- ・場所：オンライン(zoom)開催
- ・受講対象：生態工学会会員、同賛助会員企業、その他(紫外線殺菌関連企業等)
- ・主催：生態工学会 関西支部、後援：生態工学会 産学連携委員会
- ・内容：
 1. 本セミナーの主旨説明 (5分)
 2. 講演“紫外線ランプ(UV-C/254nm)を使った細菌への殺菌の応用”
(40分、質疑含む)
講演者：向阪信一氏(向阪技術士事務所、元松下電工)
 3. 主催者からの話題提供、参加企業からの応用例ご紹介(各テーマ5～10分程度)
 - ・紫外線殺菌の応用分野について
 - ・応用例ご紹介
 - ・空気清浄機への応用例のご紹介(ダイキン工業)
 - ・食品工場からの要望のご紹介(ダイキンアブライドシステムズ)
 - ・UV-CLED、植物工場用LEDのご紹介(日亜化学)
 - ・高効率紫外光反射シートのご紹介(大倉工業)
 4. まとめ、終わりの挨拶 (5分)

【コメント】

- ・合同シンポジウムには例年どおりのメンバーにご参加いただきました。
- ・新しく企画した紫外線殺菌セミナーには多方面からの参加が見込める模様なので、併せて生態工学会への新たな入会者も募りたい。

以上

【九州・沖縄支部】

継続的な会員募集

以上

【2023 生態工学会年次大会(高崎大会) 準備状況】

(1) 大会組織 (敬称略)

大会委員長：大政謙次

実行委員長：清水 庸

副委員長：石神靖弘

実行委員：遠藤雅人、大野英一、田村治美、土肥哲哉、中根昌克、細井文樹、
増田篤稔、寺添 斉 (事務局)

(2) 開催概要

【日 程】 6月24日(土)、25日(日)

6月24日(土)		6月25日(日)	
AM	一般口頭発表セッション	AM	一般口頭発表セッション
PM	総会 表彰式・受賞者講演 特別講演会 懇親会		ショートプレゼンテーション PM ポスターセッション 表彰式・閉会式

【会 場】 現地：高崎健康福祉大学農学部 10号館 (群馬県高崎市中大類町 54)
オンライン：Zoom (検討中)



アクセス：高崎駅よりバス

・送迎バス：時刻検討中

・市内循環バス「ぐるりん」 9:40、11:10、13:00、14:25、15:45、17:15

・群馬中央バス 9:45、11:55、13:50、15:30、17:20

昼食：弁当 (参加登録時に申し込み)

【特別講演会】 検討中

【OS】：募集中

【懇親会】 6月24日(土) 高崎駅周辺

【エクスカージョン】 検討中

(例：ファームクラブ中里農場 (ソーラーシェアリング)、
早世桐 (安中市) etc)

(3) 主要な締め切り一覧

内 容	期 日
オーガナイズドセッション企画案提出	2023年4月28日
一般発表セッション申込み	2023年5月8日
発表論文提出	2023年5月29日
事前参加費振込み	2023年6月16日

以上